

清流ニュース

発行所
〒192-0904
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jp.org/

令和6年度総祈願

本年度教化誓願達成・学徒・教務員増加
日序上人御廿七回忌・日鏡上人五ヶ年報恩ご奉公
寺内・境内整備ご有志奉納推進 工事無事着工
甲乙御講席主・願主増加・共連れ参詣促進ご奉公体制再構築
お助行御法門聴聞励行・教養会内容充実・役中後継者養成

四月の御総講日

一日 十時 御修行日

七日 十時 バースデー総講

十三日 十時 高祖御命日

十七日 十時 開導御命日

廿五日 十時 門祖御命日

於 清流寺

十二日 十時 高祖御速夜

十六日 十時 開導御速夜

廿四日 十時 門祖御速夜

廿日 十時 歡尊御命日
晨尊御速夜

特別行事

七日 入園、入学、進級祝式

廿一日 本山門祖会 (第二座)
当番参詣

廿八日 立教開宗記念日
一万遍口唱会

会議

一日 御総講後 役中会議

十三日 午後二時半 参事会

廿五日 御総講後 ブロック長
会議

今月から清流寺教務部による十二宗名の解説が始まります。

十二宗名、というからには文字通り十二通りの特徴があるのですが、初めの三つ(過去宗・下種宗・本門経王宗)は、より教義的な項目になりますので、実践的な特徴をあらわした残り九つを一年間かけて学んでいこうと思います。

本日のテーマである「事相」ですが、「事」とは「事実」、「相」とは「実際」に外にあらわれたカタチ」を表します。

これの反対語が「理相・教相」といわれるもので、直訳すればこちらは「教えのカタチ(ありさま)」を示すものになります。

もともとは真言密教で使われていたともいわれますが、事相とは「修行における実践方法を説明するもの」であり、理相・教相は「その教えがなんたるかを理論的に突き詰めたもの」と使い分けがされます。門祖聖人は「当宗は事相宗である」とお示し下されていますから、教えてもらったことを頭で理解し、知識として納めていくことではなく、身・口・意(心)

にわたって「実践修行」していくことの重要性をお示し下されているのです。

本年七月二十六日からパリ・オリンピックが開催されます。スポーツ選手なら誰もが一度は夢見る舞台、その栄光に向かって日々鍛錬を重ねる人も多い事でしょう。私が京都の学生時代、とあ

「論」より「実践」(テーマ:事相宗)

御教歌

本門は事相宗也 事相とは
めに見えたるを 事相とぞいふ

住職 長谷川 清泊

ある先生がこんな例え話を教えて下さいました。

ある学校に、オリンピックで金メダルを獲得した選手が指導に来て下さることになった。約束の日、その選手は、オリンピックで獲得した金メダルを首からぶら下げて来校してきた。

そのまばゆい姿はまさしく金メダルを取るにふさわしい姿と言えるが、当然のことながら、その金メダルを取った選手の姿を見ただけで運動技術が上達するわけではない。

どんな練習を積み重ねてきたのか?

今私たちが行うべき練習とは何か?
自分が持つ悪いクセを取り除くためには?
手取り足取り指導をいただき学び取り、実際にその練習法を、己れの中に取り入れ、その姿に近づけるよう努力を

することです。今以上の結果を手繰り寄せることが出来る。

「こうすればうまくいく」と頭の中で思い描いているだけでは机上の空論に過ぎない。実際に形に顕して励んでいくことが末法の修行である。というものでした。この例え話はわかりやすいものでしたので、今でも頭の中に残っています。

しました。

ご入滅後千年の間を正法時代、その後の千年を像法時代といい、その正像二千年の間は、時代を経てもまだまだ仏さまの教えが心の中に根付いているとされ、仏法を学び、その心を観ずれば自ずと成仏の果報・御利益を感得することが出来ることとされています。

いわば、金メダルを取った選手の姿を拝見し、理論を学べば即座に成仏することが可能だったので。

ですが、末法の時代にはこうはいきません。正像二時の人々には根付いていない仏さまの教えも、三毒(貪欲・瞋恚・愚痴)に取って代わられ、頭で理解しようとしても、必ず自身の欲望が邪魔をして、成仏や御利益感得を妨げます。

理論・修行法を学んだ際には必ず実践に移す。一見遠回りにも見える行いですが、これがこそが末法において必要不可欠。凡夫たる所以である三毒、そしてその三毒から生み出される罪障を吹き払い、仏のみ教え、その徳を体の隅々まで行き渡らせるためには、何よりもカタチに顕した実践修行が必要となるのです。当宗の基本修行は口業、事

相に顕れた修行「事行」とは、いわゆる「お題目口唱」お看經」です。

最初は「なぜお看經なのだろう」という疑問が生まれるかもしれない。ですが、とにかくそれを続けていくことで、自然と身に功德が積まれていき、やがてそれが御利益となつて顕れてくる。

そうした日々の中、御法門などを聴聞して「成程、御看經こそ仏さまが末法という時代に相応しい修行として遺して下されたもの。そして、お看經こそが、ご宝前にとつて、私たちが言うところの『お食事』にあたる行いなのだな』ということが次第に分かってくる。

積み重ねていくうちに、理解が後から追いついてくるのです。

開導聖人は、鎌倉時代末期の随筆家・吉田兼好が著した「徒然草」の一説を引かれ「外相調えば、内証自ずから熟す。故に事行口唱宗なり」

(上行出現したまえば迹の人の法の巨益は消失するの事。扇全十七巻三二二頁)とお示しです。

まずは形から学び、その姿を御宝前にご覧いただくよう励んでまいりましょう。この行いが感応道交し、御利益感得へ繋がります。

これが事相宗の信心なのです。